

# 青森県の漁海況速報の変遷について

佐藤晋一

## 目 的

漁海況速報ウオダスが 2018 年 10 月 1 日で 2000 号を迎えたため、これまでの漁海況情報提供についてふりかえり、今後の情報提供の参考となる事項をとりまとめた。

「漁海況」は漁況と海況のことであるが、意味としては「海況」は水温・塩分、水塊、海流、水色、化学成分、プランクトン分布などの要素によって表される海の総合状態、「漁況」は漁獲量の時間的変化の状況、という説明もなされているがはっきりした定義はない。

用語として「漁海況」が最初に使用されたのは、東海区水研（現 中央水研）によって 1959 年（昭和 34 年）から 1964 年（昭和 39 年）まで発行された「漁海況月報」においてとされている。

その後、1963 年（昭和 38 年）冬季に（北日本広域に）発生して大きな漁業被害をもたらした異常冷水現象がおき、翌 1964 年（昭和 39 年）度から水産庁の「沿岸沖合漁業漁海況予報事業」が始められた。

「漁海況」の意味を持つ調査研究は 1910 年（明治 43 年）に開始された農商務水産局の「漁業基本調査事業」にさかのぼる。“漁業を発展させるためには、重要水族の生態、海洋の理化学的性状及び漁況とを多年にわたって調査した資料を総合的に分析することが必要である”（水産局 北原多作技師）という提言が基礎となっている。

現在の本県の漁海況速報は、ウオダスにより行っており、5 日ごとに発行している。漁況は原則として直前 5 日間の主要港、主要魚種の漁獲量、海況は直前 5 日の沿岸定地水温や沖合の水温分布図などである。

ウオダス第 1 号の発行は昭和 60 年 4 月で、県の“水産だより（3 月 25 日）”（図 1）によると、それまでの月 1 回の情報提供から回数を増やし、開発された衛星情報も加えて情報発信することにした、という説明がなされている。

ウオダス（UODAS）の命名は Usable to Offshore Data Acquisition System（漁業情報利用システム）からなされた。

ここでは、青森県での漁海況情報の提供はいつごろから、どのようになされてきたのかを水産試験場等の資料を使って調べてみた。

## 材料と方法

1. これまでの漁海況情報の提供について、以下の資料によりとりまとめた。

青森県水産試験場事業報告など明治 33（1900）～38（1905）、大正 1（1912）～15（1926）、昭和 2（1927）～13（1938）、昭和 28（1953）～63（1988）、場報 昭和 10～12、水産情報 2～5 号 昭和 25～29、水産だより（青森県）、東奥日報、漁海況週報、漁海況月報、ウオダス 1～2000 号。



図 1 ウオダス発行を伝える記事  
（水産だより 昭和 60 年 3 月 25 日  
青森県漁政課）

2. 今後の情報提供の参考とするため、平成 30 年 9 月にウオダス情報を提供している機関（114 件）を対象にアンケートを行った。

## 結 果

- 1 明治 33 年からの水試事業報告をみていくと、昭和 3 年に、本年度より県内 11 か所（青森市、東津軽郡三厩村宇鉄、蟹田村塩越、東田澤、上北郡横濱、六ヶ所村泊、下北郡大間、三戸郡湊、三戸郡階上村小舟渡並ニ大畑分場、深浦分場）に漁況通信員を置くという記述がある。昭和 5～6 年には、速報ではないが大畑のするめいかや太平洋まぐろ漁海況のとりまとめ、昭和 9 年には八戸入港船（鮪流網漁業、鮪延縄漁業、さが延縄漁業、鰯揚繰網漁業、柔魚釣漁業及雑延縄漁業）に関する漁況のとりまとめがみられる。昭和 10 年からは場報が毎月発刊されているが、内容は調査試験結果が主なものであった。

昭和 14 年から 23 年までは資料がなく、昭和 24 年から 29 年は水産情報が年 1 回程度発行されている。この中では観測結果やイワシの漁況のまとめは載っているものの、調査試験結果が主なものであった。漁海況関係では海況（観測結果）、鰯漁況、昭和 27 年春季油鯨浮延縄漁業についての記述があった。

- 2 水産情報（昭和 25 年 6 月発行）第 2 号には、イワシの大群が沿岸に押し寄せたという情報が載っていたので引用すると、

「(昭和) 24 年の暖冬下では小羽いわしの大群が沿岸に来遊し、老幼男女の区別なく箆（ざる）、たもで 1 人 5 貫～100 貫（20～400 キロ）位の漁獲をしたが、70 位の古老もこんな現象は知らないと話している。全く海況と魚は密接な関係のあることが解る」※（）内は筆者が加筆

という記述があるが、残念ながら場所や詳しい時期は示されていない。手元にある「陸奥湾にイワシが打ち上げられた記録」をまとめてみた（表 1）。青森県海面漁業に関する調査結果書（属地調査年報）による県全体のマイワシの漁獲量と「陸奥湾にイワシが打ち上げられた記録」との関連をみてみた（図 2）が、両者の間に特別な関係はみられなかった。

表 1 陸奥湾にイワシが打ち上げられた記録

西暦	年号	時 期	場 所	記 事	資料等
1950	昭和25年	不明	不明	暖冬下では小羽いわしの大群が沿岸に来遊し、老幼男女の区別なく箆（ざる）、たもで1人5貫～100貫位の漁獲をしたが、70位の古老もこんな現象は知らないと話している。	水産情報 第2号
1977	昭和52年	2月26～27日ごろから3月5日ごろ	土屋地先から夏泊半島周辺を経て東湾の南東海岸横浜地先海岸一帯	弱ってふらふらになった大中羽イワシが海岸に打ち寄せられた	青森県水産増殖センター
1986	昭和61年	2月上旬	横浜町の陸奥湾沿岸	マイワシが仮死状態で大量にうちあげられた	筆者の記憶
2018	平成30年	1月下旬から2月上旬	むつ市、横浜町、野辺地町の陸奥湾沿岸	マイワシが仮死状態で大量にうちあげられた	東奥日報 ウオダス

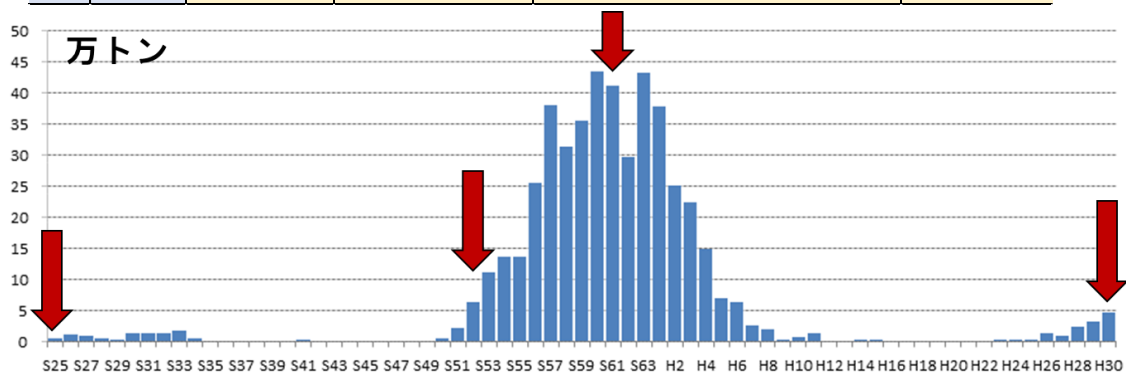


図 2 青森県のマイワシ漁獲量との関係

（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書（属地調査年報））

※赤い矢印は陸奥湾にイワシが打ち上げられた記録のあった時期

3 昭和 34 年からはガリ版刷りの八戸近海いか・さば漁況旬報が発行され、昭和 37 年からはガリ版刷りの漁海況月報が発行された。この辺が漁海況速報の始まりと思われたが、実物はみつけれなかった。

昭和 38 年からは漁海況予報事業が始められた。

昭和 40 年からは週報、昭和 44 年には日報、昭和 47 年からは月報が発行され、これが昭和 59 年度まで継続された (図 3、図 4)。

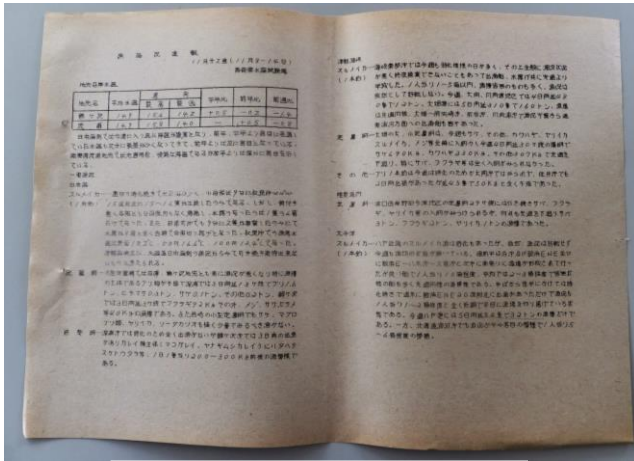


図 3 漁海況週報 (昭和 45 年)

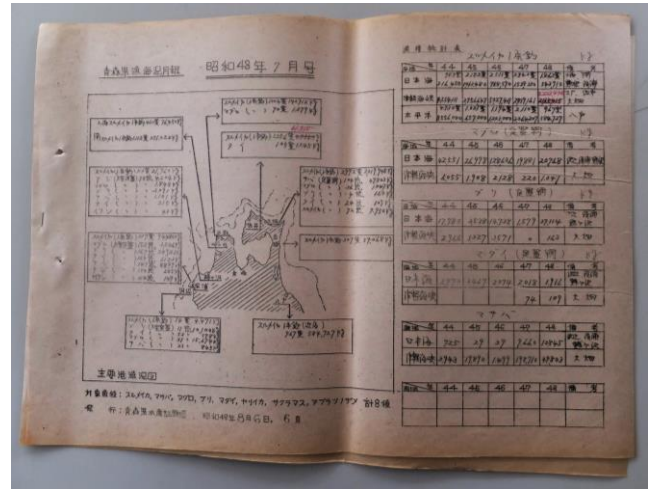


図 4 漁海況月報 (昭和 48 年)

4 昭和 59 年春には異常低水温に見舞われ、翌昭和 60 年の冬にも 2 年連続の低水温となった。被害に見舞われた地元からより短周期の海況速報発行の要請があり、青森県水産部は各地の水温情報を短周期で速報するなど、きめ細かい情報提供をすることを発表した (東奥日報 昭和 60 年 2 月 5 日)。

ウオダス創刊時の発刊の辞は以下のとおり。

『発刊に寄せて (青森県水産部長): 近年、人工衛星の利用が拓けたことによって、スルメイカやマスなどが集合する渦流域や潮境の情報を瞬時に知ることが可能となりました。このため、この人工衛星情報に、沿岸と沖合の水温、県内外の主要魚種の漁況などを加えた情報を作成し、これらを漁業者に迅速に提供することにしました。』

ウオダス漁海況速報 No.1 (昭和 60 (1985) 年 4 月 16 日発行) を図 5 に示した。

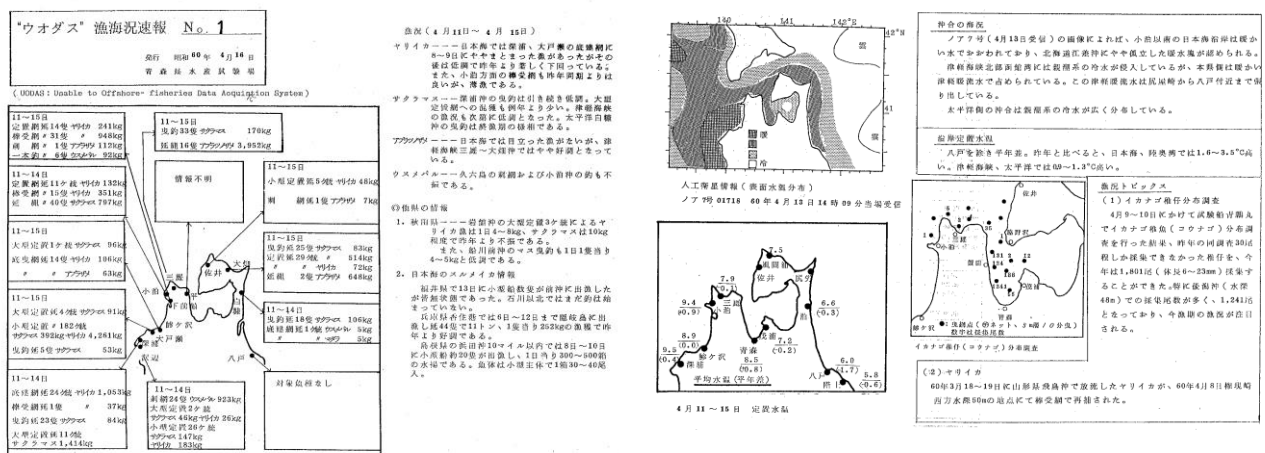


図 5 “ウオダス” 漁海況速報 No. 1

5 ウオダス漁海況速報 No.1 から 14 年あまりでウオダスは 1000 号に達した (平成 11 (1999) 年 7 月 16 日)。2000 号は平成 30 (2018) 年 10 月 1 日となった。発刊から 14 年 3 カ月で 1000 号、2000 号までは 33 年 6 カ月かかったことになる。

6 No. 1 から No. 2000 までのウオダスを見返すと、その内容はおおむね①漁況情報 ②海況情報 ③記事 ④トピックスに分類される。

漁況情報は沿岸各地の直近 5 日間の水揚げ状況、海況情報は直近 5 日間の定地水温や沖合の水温図をその内容とする。

記事の内容は①調査結果（いか釣り試験、イカナゴ・ヒラメの稚仔分布調査結果など）②標識放流（各種魚種の標識放流結果、再捕結果）③観測結果（日本海、太平洋、冷水監視観測結果など）④海況関係（低水温、低塩分、暖水塊、冷水の張出状況など）⑤クラゲ情報（エチゼンクラゲ、キタミズクラゲの出現情報など）⑥漁獲状況（魚種ごとの漁獲状況、他県の情報）⑦漁海況予報（広域的な予報。県独自のスルメイカ、ヤリイカの予測を含む）⑧〇〇のはなし（各担当者による魚種ごと、試験船、海況、マリンネットなどの解説）⑨その他（試験船の動き、県統計、ナホトカ号による重油流出事故の状況など）に分類された。

記事の件数は年間では 38～209 件で、これまでの合計は 3494 件であった。記事の内容別割合は観測結果、調査結果、漁海況予報、漁獲状況などが多かった（図 6、表 2）。

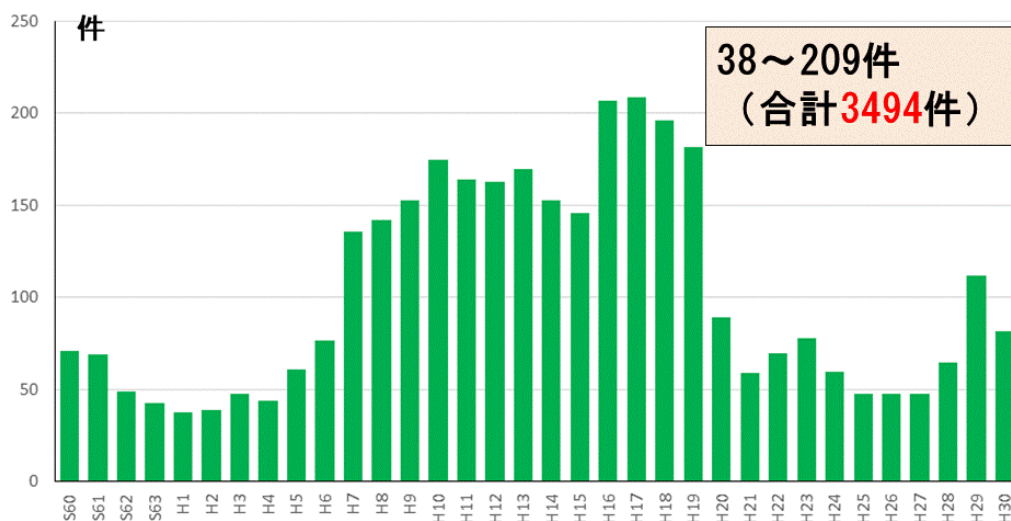


図 6 ウオダス記事の件数 (1~2000号)

表 2 ウオダスの記事の内容別割合 (1~2000号)

項目	頻度	割合 (%)
観測結果	750	22.0
調査結果	666	19.5
漁海況予報	547	16.0
各種魚種の漁獲状況	495	14.5
クラゲ情報	289	8.5
〇〇の話、解説	118	3.5
標識放流	99	2.9
海況関係の記事	54	1.6
その他	476	14.0
合計	3494	100.0

トピックスの内容は①発見情報②漁海況の特異現象③いわゆるトピックスに分類された。

発見情報は魚類 46 種、イカ類 8 種、タコ類 4 種、カニ類 1 種、クジラ類 1 種の計 60 種が報告されて



いた。

魚類はあいうえお順に、アカグツ、アカマンボウ、アバチャン、アミモンガラ、イサゴビクニン、イセゴイ、エビスダイ、オキザヨリ、カライワシ、キダイ、キビレミシマ、クロアナゴ、コマイ、サケガシラ、シキシマハナダイ、シマガツオ（エチオピア）、スギ、スズハモ、スミツキアカタチ、タカノハダイ、チカメキントキ、チョウザメ、チョウチョウウオ、ツバメウオ、ツマリドクウロコイボダイ、ツルギエチオピア、テンガイハタ、テンジクダツ、トカゲエソ、ナンヨウキンメ、ニゴイ、ニザダイ、ネンブツダイ、ノコギリザメ、ヒイラギ、ヒゲソリダイ、ヒレコダイ、ホシセミホウボウ、マツダイ、マハタ、マンザイウオ、ミズウオ、ミナミコノシロ、ユキフリソデウオ、ローソクチビキ。

イカ類はアカイカ、クラゲイカ、サメハダホウズキイカ、ソデイカ、ドスイカ、ヒロビレイカ、マッコウタコイカ、ユウレイイカ。タコ類はアオイガイ（カイダコ）、アミダコ、カンテンドコ、ムラサキダコ。カニ類はアミメキンセンガニ、クジラ類はコイワシクジラ（ミンククジラ）が報告されていた。

漁海況の特異現象としては、ヤコウチュウ（641、918号）、オオサルバ（1331、1899号）、オキアミの一種（1479号）の大量発生、エチゼンクラゲの大量来遊（737号）、横浜町を中心にマイワシが大量に打ち上げられた（1977号）などが報告されていた。



図7 トピックスの件数 (1~2000号)

また、トピックスとしては、カナダで放流されたアブラツノザメが再捕された（6, 231, 414号）、大マグロ（375キロ）が獲れた（251号）、ウバザメ（435号）、イルカ（498号）、オットセイ（1105号）、アオザメ（1418号）、ノコギリザメ（1488号）が漂着した、日本海でアカイカが獲れた（545, 1031, 1150, 1371号）、海況異変（イトヒキアジ、イシガキダイ、コバンザメ、チョウチョウウオが入網。底曳網ではゲンロクダイが入網。小泊で定置網にカガミダイが入網。各地でエチゼンクラゲ、ソデイカ、ヤミハタ、タカノハダイ、アカヤガラが獲れた（741, 747号）、ダイオウイカが獲れた（1867号）などが掲載されていた。

トピックスの件数は年間0~16件、これまでの合計で134件であった（図7）。

その内訳は発見情報が多く、トピックス、特異現象の順であった（表3）。

表3 トピックス（134件）の内訳

分類	件数	割合 (%)
発見情報	92	68.7
トピックス	32	23.9
特異現象	10	7.5
計	134	

7 アンケートの結果は以下のとおりであった。

アンケートは「県内漁協」、「市町村」、「関係機関（漁連、その他）」に送付し、回答が得られたのは「県内漁協」32件、「市町村」16件、「関係機関（漁連、その他）」6件で、回答率はそれぞれ47.8%、51.6%、37.5%であった。合計の回答件数は54件、回答率は47.4%であった。

アンケートの回答の内容を表4に示した。

表4 ウオダス漁海況速報に関するアンケート結果

所属	市町村	漁協 (ホタテ養殖)	漁協 (その他)	その他 (関係団体)	計
件数	16	10	22	6	54
関心ある記事					
各地の水揚げ	15	7	20	6	48
沿岸の水温	9	8	14	5	36
沖合の水温	5	6	12	5	28
その他			※1	※2	3
記事について					
説明を簡略化し記事を増やすべき	2	1	1		4
記事を減らしもっと詳しく説明すべき		2	1		3
ちょうどよい	14	7	20	6	47
速報について					
たいへん参考になる	12	4	11	6	33
まあまあ参考になる	4	6	11		21
参考にならない					0
役に立ったことは					
操業計画を立てやすい	1	1	6		8
操業の参考になった	1	6	21	1	29
燃油の節約になった					0
その他	※3	※4		※5	14

※1 いかの予測、くらげ情報

※2 漁獲状況の過年度比較、観測結果等の各種情報

※3 現況確認、水温による魚の来遊状況の参考になる

県内の状況を把握するうえで有意義な資料となっている

漁業者にとってはたいへん有効な情報だと思う。操業の参考になっていると感じる

状況把握しやすい、海の状況が把握しやすい、水揚げ状況の把握

各地でどのような魚種が水揚げされているか

各地の水揚げ状況が確認できた

県内各地の水揚げ状況が分かり、業務の参考としている

※4 ほたて養殖とはあまり関係がないと思うが、各地の水揚げ状況は気になる

※5 漁獲量の予想等

県内の水揚げ状況の把握ができること

各地の水揚げ状況、海水温の変化。青森県や周辺の情報がわかる

また、「その他、要望等」として、以下のような意見が寄せられた。

- ・（漁業者（ホタテ養殖））掲示板等につける場合、数字が小さくて見えにくいので大きくしてほしい
- ・（市町村）水産課に勤務していた時は参考にした。今後も継続してほしい
- ・水揚げ報道がない場合でもゼロ表示することで、漁期間がつながるようにお願いします
- ・このスペースでこれぐらいの情報量は立派だと思います。今後もよろしくお願いします
- ・県の魚ヒラメの漁獲を知りたい

## 考 察

漁海況速報は文字どおり県内の水揚げ状況や水温情報の速報を主な内容としている。また、当研究所の調査研究結果やブロック単位の漁海況予報、さらには漁海況の特異現象などその他の記事も随時掲載している。

水揚げ状況や水温情報については漁協など関係機関のご協力が不可欠であるが、そのわかりやすい伝達方法も今後吟味されていく必要がある。近年は、漁海況の特異現象や珍しいさかななどの発見情報が少なくなっている。このため、過去の情報をとりまとめたデータを水産業改良普及員の皆様に配布するなどして情報提供を促し、漁海況に関する記録やおもしろさに重点を置いた紙面づくりを心掛けていきたい。